

平成30年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 西洋文学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	西洋文学科目の問題は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、ロシア文学、フランス文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論等に関する知識レベル及び欧文（英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。

平成30年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 西洋文学 全11枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 11枚、解答用紙 2枚を配付する。

解答における注意

（専門試験）西洋文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、その設問Ⅰと設問Ⅱに答えてください。

解答用紙は2枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の1行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

出題範囲・設問・ページ

英米・英語圏文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	2～3
ドイツ文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	4～5
フランス文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	6～7
ロシア文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	8～9
西洋古典学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	10～11

[英米・英語圏文学] 設問 I

Choose two literary terms out of “allusion,” “interior monologue,” “romance,” and “subplot” and then discuss each term separately. Where does it come from? How does it work? Has its function changed? Demonstrate your understanding of each term, first by its original definition and then by its current use in English literature. Make sure you explain its characteristics by referring to at least two literary texts in order to effectively prove your idea(s).

On the first literary term of your choice, please write the essay in Japanese, though you may refer to the texts' titles and term(s) in English. The essay on the second literary term you choose has to be written in English. You may write as much as you wish within the given time.

[英米・英語圏文学] 設問 II

次の英文を和訳せよ。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典: Cecilia Heyes, "From Deflection to Despair." *The Times Literary Supplement*. July 26, 2017.

【ドイツ文学】 設問 I

次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Rika Schulze-Reuber, *Das Tanztheater Pina Bausch: Spiegel der Gesellschaft*, Frankfurt/Main 2008, S. 13.

【ドイツ文学】 設問Ⅱ

次の2問に答えなさい。

問1 次の①～③の中から1つを選んで簡潔に説明しなさい。

- ① 修辞学 (Rhetorik)
- ② シオニズム (Zionismus)
- ③ フーゴ・フォン・ホーフマンスタール (Hugo von Hofmannsthal)

問2 次の文章中の下線部について、その意味内容を具体的に説明しなさい。

*** 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、
下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。**

出典 Hugo von Hofmannsthal, Gesammelte Werke in zehn Einzelbänden, Reden und Aufsätze
I 1891-1913, Frankfurt am Main 1979, S. 234.

[フランス文学] 設問 I

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Honoré de Balzac, *Le Père Goriot*, Pocket, 1998, p.21.

[フランス文学] 設問 II

文学作品の研究を行ううえで、その作品の作者に関する知識は有益であるか、それとも役に立たないか。この点について、あなたの考えを述べなさい。なお必ずフランス文学の作品を例にとり、作者名および作品名はフランス語で記すこと。

[ロシア文学] 設問 I

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1. В. К. Третьяков (1703-1768)
2. А. С. Пушкин (1799-1837)
3. Ф. М. Достоевский (1821-1881)
4. М. М. Зощенко (1895-1958)
5. С. Д. Довлатов (1941-1990)

[ロシア文学] 設問 II

次の文を日本語に訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典： *Шмелева Е.Я., Шмелев А.Д. Русский анекдот. Текст и речевой жанр. М., Языки славянской культуры. 2002. С.49-50.*

〔西洋古典学〕 設問 I

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Δεινὸν δ' ἐστὶ τὸν ἀντιποιοῦμενον περὶ φιλοσοφίας ἂν τι λέγειν καὶ παιδεύσειν ἑτέρους ὑπισχνούμενον, ἂν μὲν ἔχη γραμματεῖον ἢ βιβλίον, δεικνύει δύνασθαι τὴν αὐτοῦ σοφίαν, ἂν δὲ τούτων ἄμοιρος γένηται, μηδὲν τῶν ἀπαιδευτῶν βελτίω καθεστάναι, καὶ χρόνου μὲν δοθέντος δύνασθαι λόγον ἐξευγεῖν, εὐθέως δὲ περὶ τοῦ προτεθέντος ἀφωνότερον εἶναι τῶν ἰδιωτῶν, καὶ λόγων μὲν τέχνας ἐπαγγέλλεσθαι, τοῦ δὲ λέγειν μηδὲ μικρὰν δύναμιν ἔχοντ' ἐν ἑαυτῷ φαίεσθαι. καὶ γὰρ ἡ μελέτη τοῦ γράφειν ἀπορίαν τοῦ λέγειν πλείστην παραδίδωσιν. ὅταν γὰρ τις ἐθισθῆ κατὰ μικρὸν ἐξεργάζεσθαι τοὺς λόγους καὶ μετ' ἀκριβείας καὶ ῥυθμοῦ τὰ ῥήματα συντιθέναι, καὶ βραδεία τῆς διανοίας κινήσει χρώμενος ἐπιτελεῖν τὴν ἑρμηνείαν, ἀναγκαῖόν ἐστι τοῦτον, ὅταν εἰς τοὺς αὐτοσχεδιαστοὺς ἔλθῃ λόγους, ἐναντία πράσσοντα ταῖς συνηθείαις ἀπορίας καὶ θορύβου πλήρη τὴν γνώμην ἔχειν, καὶ πρὸς ἅπαντα μὲν δυσχεραίνειν, μηδὲν δὲ διαφέρειν τῶν ἰσχυρόφωνων, οὐδέποτε δ' εὐλύτῳ τῆς ψυχῆς ἀγχινοῖα χρώμενον ὑγρῶς καὶ φιλανθρώπως μεταχειρίζεσθαι τοὺς λόγους.

Alcidamas, Περὶ σοφιστῶν, 15-16

註：

- ・ ἀντιποιοῦμαι + inf. 「～することを主張する」
- ・ ὑπισχνέομαι 約束する
- ・ γραμματεῖον 書き板
- ・ ἄμοιρος + gen. 「～を欠いている」
- ・ ἐπαγγέλλομαι + acc. 「～を職とする」
- ・ παραδίδωμι ここでは「許容する」
- ・ ἑρμηνεία ここでは「表現」
- ・ αὐτοσχεδιαστός 即興的な
- ・ δυσχεραίνω 不快を感じる
- ・ ἰσχυρόφωνος 弱々しい声の
- ・ ἀγχινοῖα 賢明さ
- ・ ὑγρῶς 滑らかに

[西洋古典学] 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Scio quam plurimos fratrum, scientiae scripturarum desiderio provocatos, poposcisse ab aliquantis eruditissimis viris et graecarum litterarum peritis, ut Origenem Romanum facerent et latinis auribus eum donarent. In quod etiam frater et collega noster ab episcopo Damaso deprecatus, cum homilias duas de Cantico canticorum in latinum transtulisset ex graeco, ita in illo opere ornate magnificeque praefatus est, ut cuiusvis legendi Origenem et avidissime perquirendi desiderium commoveret, dicens illius animae convenire quod dictum est quia »introduxit me rex in cubiculum suum«, adserens eum quod, cum »in ceteris libris omnes vincat, in Canticis canticorum etiam ipse se vicerit«. Pollicetur sane in ipsa praefatione se et ipsos in Cantica canticorum libros et alios quam plurimos Origenis romanis auribus largiturum. Sed ille, ut video, in stilo proprio placens rem maioris gloriae sequitur, ut »pater verbi« sit potius quam interpres. Nos ergo rem ab illo quidem coeptam sequimur et probatam, sed non aequis eloquentiae viribus tanti viri ornare possumus dicta. Unde vereor ne vitio meo id accidat, ut is vir, quem ille »alterum post apostolos ecclesiae doctorem« scientiae ac sapientiae merito comprobavit, inopia sermonis nostri longe se inferior videatur.

Rufinus, *Origenis De principiis. Praefatio Rufini*, 1

註：

- frater et collega noster ヒエロニムスを指す
- praefor -fari -fatus sum 前書きを記す
- cuiusvis いかなる人にも
- adserens eum quod ～ 「彼（オリゲネスを指す）について～と主張して」
- polliceor 約束する
- proba 推薦する
- is vir オリゲネスを指す